

Mira-Kuru

[ミラクル]
September 2018
Vol.8

環境を学び、未来を変える。



INTERVIEW



くら さか ひで ふみ
倉阪 秀史

千葉大学大学院社会科学研究院 教授

「持続可能性を考える経済学とその政策」をテーマに研究を続けている倉阪秀史教授。大学卒業後は、11年間、環境庁(当時)に在籍。地球温暖化問題が社会的に注目される中、環境基本法や環境影響評価法のドラフトづくりの仕事がされていました。倉阪先生ならではの、実務の経験をいかした研究の数々、実践的な教育をご紹介します。



Introduction



みんなで取り組む「都市鉱山発掘プロジェクト」



「子ども参観日」のバンク体験ツアー「2018」でも環境イベントを開催。地域の小学生がペットボトルの風鈴づくりに挑戦

環境活動で地域に貢献する

2017年7月より、京葉銀行と千葉大学環境ISO学生委員会が協同し、地域の環境負荷削減と環境意識向上に貢献したいという思いから「千葉大学×京葉銀行ecoプロジェクト」を展開しています。

プロジェクトは3つの柱で構成されています。

【プラン①】環境ISO委員会の情報発信強化と活動支援

2017年度は、延べ23名の学生が、国内外(カナダ、岩手、愛媛、京都、四国)の5つの環境系の会議や大会に出席し、プレゼンテーションを行いました。

【プラン②】エコアクション21取得コンサルティング

2018年度より、千葉市内の印刷会社さまを対象に、コンサルティングが始まりました。

【プラン③】学生発案の7つの環境貢献企画

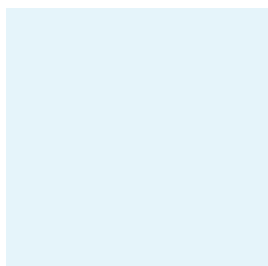
環境意識の啓発を目指して、学生からは100以上もの提案を行いました。京葉銀行と会議を重ねた結果、次の7つの企画が決定しました。

活動の中にさまざまな学びがある

今年度、ecoプロジェクトの学生リーダーを務めるのは細萱桂太さん(法政経学科2年)です。

「昨年度よりも各イベントの規模が拡大しており、大変だなと思う反面やりがいも感じています。特にChibaクリーンアクションでは、館山のアマモという海草を再生し、海をクリーンにするというチャレンジを計画。今からわくわくしています。ecoプロジェクトでは、私たち学生が京葉銀行と一緒に会議を行います。学生委員会の先輩からのビジネススキルを承継し、指導を受けながら、一つひとつ学んでいます。企画には構想段階からかわり、ステークホルダーとの連携も含めて担当するので不安も多いのですが、倉阪先生は「自由にやりなさい、責任をとるのは私の役目」と言ってくさるので、自分自身で考えながらのびのびとやらせていただいています」

学生と企業が連携し、地域の皆さまと一緒に環境について考え、イベントを楽しむ。新しい形の環境活動が、日本の縮図である千葉県で花を咲かそうとしています。



【ミラクル】
Mira-Kuru
とは？

『Mira-Kuru(ミラクル)』は、千葉大学と京葉銀行がつくる産学連携の情報誌です。

千葉大学の研究者や学生が取り組んでいるさまざまな研究を、**農業** **環境** **健康** **福祉** **科学** という5つのテーマに分けて、わかりやすく皆さまにご紹介していきます。

2012年7月、京葉銀行は70周年記念事業として、地域経済の活性化を図り、活力ある経済社会の形成及び学術・文化の振興を目指して、千葉大学と包括的連携協力に関する協定を締結しました。双方が有する人的・知的財産を融合し、地域の皆さまへのさまざまな付加価値の提供、地域社会、経済、産業の発展と活性化に積極的に取り組んでいます。本誌もその一環として創刊されました。

産学連携・共同研究についてのお問い合わせ

株式会社 京葉銀行

法人営業部 法人営業グループ

発行：京葉銀行／編集監修：千葉大学 鈴木弘樹(工学研究院 建築学コース 准教授)

☎ 0120-551-210

受付時間 月～金 9:00～17:00 (土・日・祝日および12月31日～1月3日は除きます)

携帯電話からは TEL.043-306-8176 (通話料有料)